

合格者の声

「QC検定受検を通して身につけた知識を活用し、実際に組織で発生している問題を解決することができた。」
「直接製品の製造に関わらない部署であっても、QCの知識は仕事の考え方として利用できる。」など様々な声が届いています！



品質保証部門所属

QC検定合格は一つの通過点であり、どのような目的を持って勉強するか、得た知識をどう生かすかが重要だと感じています。勉強しながら、自分の仕事や社内の問題とどのように繋げられるかを常に考えていました。私の場合は、ばらつきの評価や試験台数の決定が課題としてあったため、それらに有効だと思える手法については特に詳しく勉強しました。業務に取り入れ、実際の問題と合わせて考えることで、単なる知識としてではなく、実践的に身に付けることができました。



総務部経理課所属

自部門や工場で開催されるQC教育に積極的に参加して試験に臨みました。受検勉強を通して、普段指導されているQCの考え方や各種の手法を体系的に学ぶことができ、大変勉強になりました。学んだことを普段の業務改善に生かすことはもとより、次は、2級をめざしてがんばってみようと思います。



品質管理部門所属

QC検定は特に製造業において品質を維持、向上させていく上での基礎知識を多く含んでいて、日常業務で物事を正しく判断する際の基準、品質に関する基礎体力であると感じています。統計的手法についても起こっている事実・現象を正確に把握し、解決への糸口を見つけるのに有効であり今後、いかに実務に活かしていくかに重きを置いて仕事をしていきたいと思っています。



製造部門所属（入社1年目）

新入社員研修の時からQC検定4級は社員全員取得を目指していると言われてきました。商業高校出身の私は、その時初めて「QC」という用語を耳にしました。QC検定4級では基礎を学ぶことが出来ました。QCサークル活動や改善活動に少しでも役立てたいと思っています。さらにQCについての知識を深めるためにも、3級、2級の上級取得に向けて努力していきたいと考えます。

QC検定を導入・活用している企業からの声

—QC検定合格者が社内講師に！相乗効果によりQCへの理解が深まる結果に。—

TOTO株式会社

チームワーク・コミュニケーション
向上にも大いに役立っています。



大分工場では2006年度から「QC検定合格を目指して学び、小集団活動の基本と本質を学ぶ」狙いで社内研修会を実施しています。講師は当初各事業所のQ-up事務局の方が担当していましたが、QC検定合格者に講師を担当していただき研修講師として活躍の場を広げています。QC検定合格者が研修や他サークル員の先生役となり、実践の場で活かすことにより「教えることは学ぶこと」の連鎖反応を起こし、チームワーク・コミュニケーション向上にも大いに役立っています。

YKK株式会社

自分だけで勉強するのと、
人に教えるのは、まったく違う。



当初は品質・環境センターのメンバーのみが講師役となり講義を行っていましたが、社内におけるQCの裾野の広がりとともに、他部署でも講師役を受けてもらえるようになってきました。講師役を経験した人からの共通のコメントは、「自分だけで勉強するのと、人に教えるのは、まったく違う」ということです。講師役になるには授業内容を組み立てることに加えて、知識をより幅広く、かつ深く持っていることが必要であると感じています。上記のコメントはその現れであると理解しています。

受検情報や申込み、各種最新情報はHPをご覧ください！

<https://www.jsa.or.jp/>

QC検定

検索



詳しくは
WEBで！

製品・サービスの品質向上に、確実な知識と力を！

一般社団法人 日本品質管理学会認定



QC検定

The Quality Management and Quality Control Examination 品質管理検定

年2回(3月、9月)開催



QC検定とは

QC検定(品質管理検定)は、品質管理に関する知識をどの程度持っているかを4段階の知識レベルに分け、それぞれに筆記試験を実施し、客観的に評価を行うものです。

QC検定(品質管理検定)は
(一社)日本品質管理学会の認定を受けて実施しています。

2005年に第1回試験が始まり、それ以降9月と3月の年2回、毎年試験を実施しています。2018年度は、全国で約115,000人の方に受検いただきました。現在までに、合格者は累計55万人を超えています。

品質管理の知識といっても、どのような問題を解決するのかによって必要となる知識は異なります。QC検定では、品質管理・改善を実施するために求められる能力とその能力を発揮するために必要な知識を4つのレベルに分け、1級～4級の4つの級を設定しています。

全国
約 **100** 万人
が受検!
(累計)



解説! 組織で品質管理に取り組むポイントとは？

POINT 1

品質管理ってなんで大切なのか?

日本の品質神話を揺るがす問題が相次いで発生しています。品質問題が起きる一つの要因として従業員の品質管理意識の低下があります。品質管理は工程で品質を作りこみ、万が一欠陥が発生しても、どこで、どんな原因で起きたかを突き止め、その原因を取り除くことができます。品質管理知識の評価にQC検定を活用されてはいかがでしょうか。

POINT 2

部門なんて関係ない! すべての人が「よい品質」を生み出す努力を!

一つの製品がお客様の手に届くまでは、それぞれの人の仕事が続いていきます。よい製品やサービスをお客様に届けるためには、部門の垣根を超え、製品やサービスに係るすべての人が協力し、それぞれの仕事において「よい品質」を生み出す努力が大切なのです。

POINT 3

品質管理用語は共通語! 社内・社外のコミュニケーションUP

職場やお客様との会話の中で、品質管理用語が出てくる場合があります。そんなとき品質管理の用語を「共通言語」として使うことができれば、相手の言いたいことをより深く理解することができます。社内・社外コミュニケーションの向上のためにも、品質管理用語を「共通言語」として組織全体で使えるようにすることが大切なのです。

メリット QC検定受検による効果

QCレベルの底上げによる組織の活性化

社内の品質管理・問題解決力の向上

人事計画性が明確に

採用時の能力評価基準に

社内教育の計画立案が容易に

QC検定 を活用! 到達レベルの1つの指標に!

組織全体で品質管理を学ぶことの重要さはわかるけど、それぞれの仕事によって、解決すべき問題も必要な知識も異なるし、どのように教育を進めれば良いかわからない……。そんな方にもQC検定はおすすめです。QC検定では、組織においてどのような仕事をされているか、その仕事において品質管理、改善を実施するレベルはどれくらいか、そしてその管理・改善をするためにどれくらいの知識が必要かなどにより4つの級を設定しています。ぜひ、教育の到達レベルのひとつの指標として、そして組織全体のQCレベルの底上げにQC検定をご活用ください!



団体申込 受検者データ

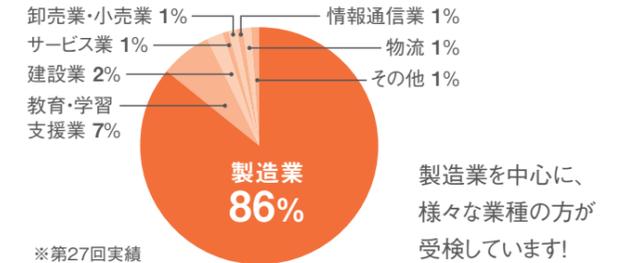


団体申込み組織数の推移



団体申込み組織数はあまり変化はありませんが、全社的にQC検定に向けた社員教育を実施する組織が増えています!

団体申込み組織の内訳



取組み 事例紹介

企業はもちろん、学校や地域単位でのQC検定への取組みも広がっています。

QC検定導入の経緯

企業の場合

会津碍子株式会社

学ぶことの習慣化という意味合いも含め取組みを進めています。

「工場勤務者のみならず管理、営業部門においても品質向上は永遠の課題である。当社で働く全従業員を対象として取り込む。」との経営トップの方針が示されたことで、従業員全員にそのメッセージが浸透しており、取得に向け真剣に取り組んでいます。取得に向けた学習方法については、受検料をはじめ全面的に会社がバックアップしており、業務の延長として取り組むことにより、学ぶことの習慣化という意味合いも含め取組みを進めています。自ら取り組んだ従業員は、自己啓発のルールにQC検定の取得を新たに設け対応することとし、自己啓発の活性化を図っています。

シチズンファインデバイス株式会社

シチズングループではビジネスライセンス制度を設けています。

合格率UPのために、模擬試験や模擬試験の結果を踏まえての解説会を実施しています。シチズングループではビジネスライセンス制度を設けており、認定された資格を取得した従業員に対し、資格のランクに応じて報奨金を支給したり、社内公知したりする仕組みがあります。QC検定3級以上もこのビジネスライセンスの資格に認定されており、従業員のモチベーションの1つとなっています。

地域の場合

綾部商工会議所

綾部会場団体受検の検定を開催できることとなりました。

会員事業所向けに開講したQC検定3級対策講座の受講者から、せっかく講座を受講するなら試験を受けたいが、都市部の受検会場だと行くだけで大変という声を多く聞き、当地綾部で実施ができないかと検討しました。QC検定センターに問い合わせましたが、地方での実施には受検者を100名以上集めなければできませんとの返答を受けました。そこで、綾部

商工会議所では、会員事業所の要望に応えるべく、また地域貢献のために、なんとか実施できないかと近隣の学校や製造関係の事業所などに聞き取りしたところ、受検者が集まる見込みができ、綾部会場団体受検の検定を開催できることとなりました。

